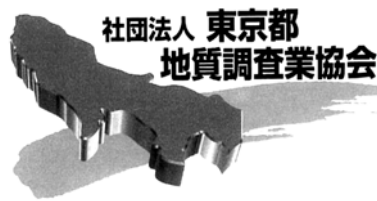


東地協ニュース 2008.春 第13号



厳寒の釧路・湿原の旅

広報副委員長 山口 幸雄

先般、協会員有志で道東の釧路へ旅をした。釧路は、釧路川の河口に開けた釧路湿原国立公園への玄関口である。今回の旅の主目的は、北海道の自然・食材に接することと、特に国鳥である天然記念物のタンチョウの姿を釧路湿原でじかに見ることであった。飛行場を降りてまず向かったのは、空港のほど近くにある丹頂鶴自然公園である。自然環境を生かした敷地内は静かで、タンチョウが飼育されていた。初めて目の前で見える優雅な姿は、感動する。次は、日本の陸上動物の中でいちばん大きい蝦夷ヒグマを見に釧路動物園に行った。ガラス越しに直面する姿は迫力満点だ。手のひらが人間の顔ぐらいでかい。午後は釧路湿原展望台だ。湿原の自然の展示も良いが、展望バルコニーからの釧路湿原とその周辺を一望する大パノラマは絶景で夕日がきれいでした。当日の泊まりは、釧路湿原シラルト口沼畔に建つ町営の宿だ。露天風呂付きの温泉大浴場を備えている。伺ったのは1月後半、夜の外気温はマイナス19、露天風呂はプラス42、入浴はなんとも感動だ。ぜひ皆さん、機会があったら、行って見てください。翌朝は、鶴居村の東はずれにある日本野鳥の会 鶴居伊籐タンチョウサンクチュアリを訪問した。

100羽ほどのタンチョウが飛来していた。優雅な求愛ダンスやクークーと鳴き声とともに遠くの空から飛来してきたときの姿はきれいで飛天を思わせる。一際映えるタンチョウの優美な姿は、アイヌの人々がサルルンカムイ(湿原の神)と呼んだ、まさにそのものであった。その日の夕方は、市内に戻って、炉ばた焼き、トキシラズ・メンメの焼き魚、ホッキ貝・ホタテの刺身など北の幸を満喫した。あと行ったところ、福司酒造・竹老園東家総本店(日本そば)・和商市場そして釧路の町並みが一望できる米町公園だ。

平成20年度の始まりにあたり、今年度も1回は素直になって自分を見つめる時間を作って協会員同志で気の合う仲間と友と旅をするのを楽しみにしています。



会議報告等

1. 20年1月18日 理事会

- (1) 会員の退会について(株)アオイテック・10月末日付)
- (2) 社団法人10周年記念事業について
- (3) 講演会協賛開催について(11月29日開催)
- (4) CPDについて
- (5) 東地協ニュース13号について(4月発行予定)
- (6) 防災パネル展「新宿区」へ被害想定パネル(29枚)貸し出しについて(20年1月15日~21日)
- (7) 防災講演会について
小平市(平成20年1月19日開催予定)
江戸川区(平成20年2月5日開催予定)
- (8) 業務案内発行について
- (9) 新年広告掲載について(建通新聞・1月1日号掲載)
- (10) 公益法人制度改革について
- (11) 技術ノートNo.40について(11月発行)

2. 20年2月29日 理事会

- (1) 賛助会員の入会について(有)エム・システム・3月1日付入会)
- (2) 第20回通常総会について(20年3月21日開催予定)
- (3) 平成19年度仮決算報告
- (4) 平成20年度事業と予算の方針について
- (5) 技術研修会に関するアンケート報告

3. 20年3月21日 理事会(総会前)

- (1) 第20回通常総会の進行について
- (2) 役員改選について
- (3) 社団法人10周年記念事業について
- (4) 賛助会員の退会について(有)榎本精機・4月1日付)
- (5) 技術副委員長について

4. 20年3月21日 理事会(総会后)

- (1) 会長、副会長の選任の件
- (2) 役員担当業務について

5. 第20回通常総会(予算)、懇親会

去る3月21日(金)測量地質健保会館7階大会議室において第20回通常総会が開催された。当日は会員数41社に対し、34社が出席(うち委任状提出11社)。議事の概要は以下の通り。全議案が承認された。

- (1) 平成20年度事業計画(案)承認の件
- (2) 平成20年度収支予算(案)承認の件
(1), (2)ともに異議無く承認された。
- (3) 役員改選の件

任期満了に伴い役員改選が行われ、以下の方々がそれぞれ就任された。

平成20~21年度 役員

(順不同 敬称略)

・理事(14名)

- 外部理事 -

安田 進 東京電機大学理工学部 教授

山崎 晴雄 首都大学東京大学院
都市環境科学研究科 教授

若松加寿江 関東学院大学工学部
社会環境システム学科 教授

田中 政治 公認会計士田中会計事務所 所長

赤瀬 暁 有限会社アカセ技術事務所 代表取締役

片山 浩明 東邦地下工機株式会社
企画開発本部 開発部次長

榎本 光孝 株式会社インターナショナル・サーボ・データ
代表取締役

小川ひろし 株式会社三誠 専務取締役

- 内部理事 -

会 長 大越 良裕 大和試錐工業(株) 代表取締役

副会長 早田 守廣 大和探査技術(株) 代表取締役会長

副会長 金道 繁紀 (株)地盤試験所 代表取締役

広報委員長 中込 実敏 協和地下開発(株) 取締役営業部長
 技術委員長 大竹 勉 基礎地盤コンサルタンツ(株)
 関東支社 副支社長
 総務委員長 佐藤 剛 日本物理探査(株) 関東支店
 執行役員 関東支店長

・監事(2名)

原島 滋 (株)ダイエーコンサルタンツ 代表執行役員
 小野寺 靖 多摩ポーリング(株) 代表取締役



17時からは会場を銀座ライオン池袋西口店に移し、懇親会を開催した。



委員会報告

【総務委員会】

1月総務委員会 平成20年1月30日

- (1) 平成19年度事業と仮収支について
- (2) 平成20年度事業計画と予算について
- (3) 第20回通常総会について
- (4) 東地協ニュース13号について
- (5) 平成19年度11月、12月収支報告

【広報委員会】

3月広報委員会 平成20年3月6日

- (1) 理事会報告
- (2) 平成20年度広報活動について

新宿区・小平市・江戸川区の各区・市民講演会に協力した。

【技術委員会】

12月技術委員会 平成19年12月6日

- (1) 防災講演会(小平市, 江戸川区)実施について
- (2) 地質見学会について
- (3) 日環協(長野)講習会報告
- (4) 土壌地下水汚染調査勉強会について

平成19年度技術委員会活動報告

新年度を迎えた現在、平成19年度における技術委員会活動報告をさせていただきます。

はじめに「ノート部会」の活動について報告いたします。技術ノート40号タイトルは、東京の人だけでなく多くの日本人にとっても馴染まれた名前の川である「隅田川」でした。技術ノートは年1刊になり、4月・5月にかけてテーマを選ぶ作業、6月・7月に現地取材、8月から11月に執筆編集作業を経て、11月16日に発刊となりました。このテーマもたいへん読みやすく、地形地質の専門的なことが平易に書かれており、さらに江戸庶民生活とのかかわり、橋や災害のこと、そして親水施設としての将来像と隅田川などを歴史的かつ空間的に紹介しております。

次に、「講演部会」のメインイベントである技術フォーラムは、11月2日にJR京浜東北線王子駅北口にある「北とぴあ」で行いました。技術発表シンポジウムは8編とこれまでにない少ない結果でした。招待講演は(独)建築研究所の田村昌仁先生(上席研究員)による「住宅基礎地盤の耐震設計の現状と課題 - 最近の被害地震を教訓として -」であり、会員技術者にとって興味深い内容を多くの事例と写真で紹介いただきました。

防災展は東京都総務局災害対策本部主催で毎年開催されております。これに当協会と関東地質調査業協会の協賛で今年は8月21日から24日の間で新宿西口広場イベントコーナーで催されました。例年の土砂災害写真パネル展示

は、今年の7月16日に発生した中越沖地震がホットな内容でした。さらに、防災についての講演を当協会理事で（独）防災科学技術研究所の若松加寿江先生、前述の田村昌仁先生、奇抜な講演スタイルやエッキーで馴染みの（独）防災科学研究所の納口恭明先生が来展した一般の方々に分かりやすく説明をされました。なかでも「大地の解体新書」と今回初めての「揺れやすさマップ」をパソコン上で動かして我が家地盤の耐震性の診断を示したことで例年以上に人気を集めました。

防災に関する講演はこればかりでなく、小平市からの依頼で平成20年1月19日に当協会外部理事で首都大学東京の山崎晴雄先生、同様に江戸川区では平成20年2月5日に若松先生によって職員や市民を対象に防災に関する講演会が行われました。講演部会はこれら講演会への協力活動に携わりました。

「環境部会」は土壤汚染調査ビジネスの情報提供と啓蒙を目的として活動しております。今度で3回目を迎える分析ラボ見学会が平成19年10月26日に株環境管理センターのご協力により分析基礎研究所（八王子市）で行われました。15名の参加者は、普段見られない分析機器設備と分析に関する知識を学ぶことができました。

平成19年11月16日には長野県環境分析測定協会（会員企業25社）への出張講習会を行いました。参加者39名で環境部会4名の委員が講師となり、土壤汚染の法的知識と実際フィールドでの土壤採取技術の実演講習がなされました。受講の協会側からはたいへん感謝されました。

技術委員長 大竹 勉（2008年3月末）



会員コーナー

東京マラソン 2008 に参加して

さる2月17日に開催されました「東京マラソン 2008」フルマラソンの部に参加しました。

昨年第1回が開催され、今年は2回目となります。都心を縦横に走れることもあって人気も高く、参加希望者が多く抽選により出場資格が得られます。今年も3万人の募集に対し、15.6万人の申し込みがあり、5.2倍の競争率となりました。

さて、本題のレースですがスタート前の温度は2.5度ととても寒い朝でした。スタートまでに約50分も待たなくてはいけなくて体は完全に冷え切ってしまいました。3kmほど走ると体も温まりマイペースを取り戻すことが出来ました。走る前に自分なりのペースを設定していましたがそのペースを守りながら走り続けました。沿道の応援もかなり熱狂的でランナーにとっては励みになり気分良く走る事が出来ました。ところがやはり魔物は潜んでいたのです。35km過ぎあたりからだんだんきつくなり37km付近でとうとう足の痙攣を起こしてしまいました。そこから先は地獄の苦しみと戦いながら何とかゴールをすることが出来ました。所要時間は後半の落ち込みが響いて、目標より遅く4時間27分でした。

マラソンはよく人生にたとえられますが、確かにそれに通ずる所があると思います。まず、レースまでの体作りの期間が学生時代に相当します。この期間にマラソンランナーとしての体作りをし、最後まで完走できる自分のペースを確認できるのです。そして、スタートしてゴールまでが社会人としての期間なのです。しかし、いくらこのペースを維持できる体力があっても予期せぬアクシデントが起きることもあります。これは社会生活も同様です。今回の私のように後半のアクシデントにより苦しんだ事、これは自分の力量と体調を誤診した結果アクシデントにうまく対応できなかったのです。仕方が無いことです。一方、この失敗があるから次へのチャレンジ精神も湧き楽しいのです。

とにかく私の「東京マラソン 2008」は終わりました。今振り返ると様々な思い出が脳裏を過ぎります。寒風の中、雨の中の練習に歯を喰いしばりながら頑張ったこと、大会関係者の色々なプロモート活動に盛り上げられ自身を鼓舞したこと、多くの友人たちに期待され完走を目指したこと、又、大会の中で苦しいとき仲間たちや沿道の応援に励まされ何とかゴールを目指すことが出来たこと等、周りの人々に支えられ大会出場が叶い完走できた。これぞ人生そのものです。今後もこの人の温かさや健康であることの喜びを感じつつ走り続けたいと思っています。

天神 悟 氏
（基礎地盤工カクカ株式会社 関東支社）



トピックス(協会行事紹介)

平成 19 年 12 月 16 日 新宿区防災講演会を開催

平成 19 年 12 月 15 日, 16 日に新宿区防災・防犯リーダーを対象とした「平成 19 年度新宿区防災・防犯リーダー実践塾」が新宿区立教育センターで開催され、当協会は2日目2時限目の防災の講演に協力しました。講師は首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授 山崎晴雄先生(当協会理事)をお願いいたしました。

当日は、「活断層と地震防災」をテーマに講演が行われました。



平成 20 年 1 月 19 日 小平市防災講演会を開催

平成 20 年 1 月 19 日に小平市市民リーダーを対象とした「市民リーダー研修」が小平市健康センターで開催されました。講師は新宿区に引き続き、首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授 山崎晴雄先生(当協会理事)をお願いいたしました。

当日は、防災リーダーの方約 50 名が参加され、「小平市の地盤と地震防災」をテーマに講演が行われました。



平成 20 年 2 月 5 日 江戸川区防災技術講習会



平成 20 年 2 月 5 日に区の職員を対象とした技術研修会が江戸川区役所で開催されました。講師は独立行政法人防災科学技術研究所 若松加寿江先生(当協会理事)をお願いいたしました。

当日は、江戸川区職員約 30 名が参加され、「江戸川区と首都直下地震」をテーマに講演が行われました。

「第 20 回技術者のための新春の集い」講演内容紹介
関東地質調査業協会主催の「第 20 回技術者のための新春の集い」が平成 20 年 1 月 25 日(金)に千代田区にある「アルカディア市谷」で開催されました。これには関東地質調査業協会傘下の東京都((社)東京都地質調査業協会)・茨城県・埼玉県・千葉県・長野県各支部の技術委員長と関東協会技術委員会委員による合同委員会もたれて、それぞれからは活動報告と意見交換がなされました。この後に二つの講演会が行われましたので簡単に紹介させていただきます。

最初の講演は「地球温暖化対策としてのCO₂回収・貯留技術を巡る国内外の動向」という演題です。対策が急がれるこの問題については(財)地球環境産業技術研究機構の伊東明人主任研究員の講演でした。講演内容は次の五つのテーマについての最新の話題提供でした。

1. CCS (CO₂の回収・貯留)技術とは
2. CO₂地中貯留長岡実証プロジェクト
3. CCS 実用化に向けた課題



4. CCSの海外動向

5. CCSをめぐる政策動向と今後の方向性

我が業界との関連では地下貯留に関する方法として、地下1km~2kmにある深部塩水層、油・ガス田(枯渇を含む)石炭層を対象にした探査とボーリング技術の活用とモニタリングが紹介されました。

後の講演は都協会外部理事で首都大学東京の山崎晴雄教授による「活断層に関する最近の話題」という講演でした。講演内容は次の五つの興味あるテーマについてでした。

1. 1995年兵庫県南部地震以降の活断層に係わる社会情勢の変化

2. アスペリティと活断層

3. 固有地震よりひとまわり

小さい地震発生の可能性



4. 活断層の多くは古い構造の再活動

5. 活断層の評価に係わる諸問題

これらのなかで私たちもアスペリティという用語を耳にすることがあり、門外漢の私にとっても分かりやすく聞かせていただきました。さらに、中越地方を襲った最近の二つの地震と活断層の評価については興味深くホットな話題でした。

会員(正会員・賛助会員)動静

(1) 賛助会員の入会(平成20年3月1日付)

- ・ (有)エム・システム

(2) 賛助会員の退会(平成20年3月31日付)

- ・ (有)榎本精機

住所、代表者、会社名等の変更がございましたら、お手数ですが協会事務局までご報告をお願い致します。

(協会事務局 TEL 03-3252-2963)



行事日程

日程	行事名・内容等
5月23日(金)	第21回通常総会(決算総会), 講演会 場所: 測量地質健保会館 大会議室 講演: 地質調査に係る最近の動向 講師 (社)全地連 専務理事 寺本 邦一氏

・ 編集後記 ・

春と云えば、お花見や卒業、入学・入社とともに異動の季節。

東地協ニュースは総務委員会と事務局が主となり発行していますが、5年に渡り総務委員を務められた三原さんが異動のため羽鳥さんと交代されました。

三原さんの新任地での活躍をお祈りいたします。

また新任の羽鳥さんともども東地協ニュースを宜しくお願ひ致します。投稿もお待ちしております。

(総務委員 A.S)



東地協ニュース 2008.春 第13号

発行・編集 (社)東京都地質調査業協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-6-8 (内神田クレストビル)

TEL 03-3252-2963 FAX 03-3252-2971

<http://www.tokyo-geo.or.jp/> E-Mail info@tokyo-geo.or.jp

